

2019 年度AO選抜 文学部 国際文化学域
「課題論文方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

| 学科・学域・専攻 | 志願者数 | 一次合格者数 | 最終合格者数 |
|----------|------|--------|--------|
| 国際文化学域 | 18 | 14 | 12 |

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

入学後に学ぼうとしていることが国際文化学域の教学目標と一致しており、しかも学習目的が明確であるために、学習意欲を感じることができている内容であることが大きなポイントとなりました。課題レポートでは、どれほど関連する著作に目を通し、自分の視点からその問題に取り組もうとしているのかが感じられるものに高い評価を与えました。

(2) 解答状況

全体としてこちらが希望している内容が多い印象を受け、能力の大きなばらつきは感じられませんでした。国際文化学域の教学内容と若干ずれている課題レポートも存在しました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

テキストを適切に読み込み、正確に理解できていることがわかる解答に大きな評価を与えました。

(2) 解答状況

全体としてこちらの要請を満たす解答が多く、面接でははっきりとした真摯な受け答えが多かったという印象を得ました。能力に大きな差異は感じられなかったのですが、読解能力や表現力の点で劣っているため、内容をあまり理解していない受験生も見られました。

(3) 試験（面接）内容

まず、論文試験の問題の内容に関して出された質問に適切かつ簡潔に回答できることを重視しました。また、国際化・グローバル化していく世界が抱えるさまざまな問題を取り上げ、その問題に対してどのように対処していくべきなのかを考察する内容の問題を作成し、その内容を正確に整理して、適切に理解しているのか、またその問題と入学後の学習内容とがつながっているのかを問いました。

(4) 出題（面接）の意図

読解力とコミュニケーション能力が十分であるのかを読み取ろうとしました。さら

に、現代社会が抱える問題に対して自分の意見をしっかりと持って、それを表現できる能力を有しているのが重要なポイントになりました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

普段から新聞やテレビ、ネットでニュースを現代社会が抱える問題を理解し、それに関してディスカッションできる能力を身に付けていくことを望みます。そうでないと、読解力はあるても、文章を深く理解し、コミュニケーションしていくことが困難になります。

以上